




第12回日本ジオパークネットワーク全国研修会 報告（簡易版）

1. 主 催 特定非営利活動法人日本ジオパークネットワーク
恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会
2. 後 援 ESD活動支援センター、中部地方ESD支援センター
3. 趣 旨 ジオパークの活動に地域住民が積極的にかかわり、地域の活性化につなげることは、持続可能な地域を目指す上で非常に重要である。勝山市では、ジオパークとなる前から「エコミュージアム」という活動を通して“まちづくり”を行ってきた経緯があり、勝山の各地域には様々なまちづくり団体があり現在も活動を行っている。今回の全国研修会では、参加者には市内のいくつかの団体の活動を見てもらい、そこにジオパークをどのように活かせるか、各団体のメンバー目線で参画していただき、それらの団体の将来の活動に向けて一緒に考えていただく。この研修会を通して、当ジオパークではまちづくり団体の活動の活性化を図り、参加者としては地域住民を巻き込んだ活動にどのように変化を起こさせるかを考え、学ぶ機会とする。
4. 開催日 平成30年11月15日（木）～16日（金）
5. 開催地 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク
6. 会 場 全体会：勝山市教育会館
グループワークA：野向公民館、のおき風の郷ほか
グループワークB：白山平泉寺旧境内、歴史探遊館まほろばほか
グループワークC：はたや記念館 ゆめおーれ勝山ほか
7. 参加者数 69名（43地域）
8. 研修内容
 - （1）研修テーマ 「地域住民を巻き込んだ活動の活性化」
 - （2）進め方
 - ①全体でオリエンテーションを行った後、約23名ずつに3つのコースに別れ、各団体が活動する地域へ移動（各地域内で7～8名1組のグループで行動）
団体の区分は、A:地域産品を活かしたまちづくり（地域産品コース）、B:歴史・人々の暮らしを活かしたまちづくり（歴史・暮らしコース）、C:近代化産業遺産を活かしたまちづくり（産業遺産コース）とする。
 - ②現地へ移動したのち、各まちづくり団体で行っている活動の目的や取り組み内容について実際に現地で話を聞き、各々が各団体のメンバーになったつもりで、活動における課題や将来性について考え、課題などを共有。
 - ③課題解決に向けた活動についてグループワークを行い、グループごとに、各団体のメンバーとして、活動に対する提案。それらを取りまとめて一つのプランとする。
 - ④最後に3コースが一堂に集まり、各グループワーク結果を持ち寄って発表し、結果報告・情報共有をした。

コース	参加者数	活動概要	活動風景
A: 地域産品 コース	23名	<p>勝山市野向町の全町民が会員となっているNPO法人まちづくりのむきの会が行っているエゴマを使った活動を題材とした。</p> <p>エゴマの栽培～搾油までのさまざまな工程を体験プログラムとして商品化し、労働力不足を補うアイデアやエゴマに関するジオストーリーを確立することでエゴマ油の魅力を向上させるといったアイデアが提案された。</p>	 
B: 歴史・暮らし コース	23名	<p>勝山市の平泉寺町平泉寺区にある平泉寺白山神社における地域住民による保全活動を題材とした。</p> <p>現状では、ガイドが「点」での解説しかできていない。そのためストーリーを意識したガイドを養成することで、平泉寺白山神社の魅力をさらに上げるという提案がなされた。地域の子どもたちを巻き込んだ活動をするすることで、将来の担い手を育む活動につなげる提案もあった。</p>	 
C: 産業遺産 コース	23名	<p>繊維産業に関することを中心に、「はたや記念館ゆめおーれ勝山」で展示や体験などの活動を行っているNPO法人まちづくり勝山の活動を題材とした。</p> <p>自主財源を確保するために、絹にちなんだ食品（まゆだまわたがし）の開発や福井県立恐竜博物館との連動プログラムの実施、地域のさまざまな人とのイベントの開催などを行うことで、持続可能な経営につながる提案があった。</p>	 

全国からの参加者だけではなく、今回協力して頂いた地域住民にとっても、自分たちのこれまでの活動を振り返って見直すいい機会となった。